

島根県立石見美術館

コレクション展「シャネルとヴィオネ」の開催について

島根県立石見美術館では、コレクション展「シャネルとヴィオネ」を下記のとおり開催いたします。

記

1. 会 期 平成 29 年 9 月 27 日(水)～11 月 6 日(月)

休館日：毎週火曜日（ただし 10 月 3 日は開館）

開館時間：10:00～18:30（展示室への入場は 18:00 まで）

2. 会 場 島根県立石見美術館 展示室 B（グラントワ内）

3. 展覧会概要

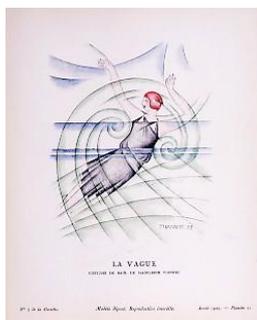
1920～30 年代を代表する二人の女性デザイナー、ガブリエル・シャネルとマドレーヌ・ヴィオネの仕事を紹介します。シャネルは、当時下着に用いるのが一般的であった素材を外着に用いたり、それまで喪のイメージが強かった黒一色の衣服をシックでエレガントなフォーマルウェアとして世に送り出すなど、それまでの常識を覆す機能的な衣装を提案したことで知られています。一方、布地を斜めに裁断する「バイアスカット」という技法の名手として知られるヴィオネは、複雑なカッティングを駆使し、人の身体やその動きに自然となじむ、着心地のよいエレガントな衣装を数々生み出しました。

二人の仕事はいずれも、20 世紀初頭までのリボンやフリルなどを沢山つける「装飾」のあり方に疑問を呈し、衣装そのものではなく衣装を身につけた着用者の美しさに注目する新しい価値観に立脚したものでした。本展では衣装 6 点をはじめ、未来派のアーティストとして知られるタヤートが手がけた、ヴィオネの衣装を紹介する版画などで、シャネルとヴィオネの仕事をご覧ください。

4. 展示作品 衣装 6 点、版画（ファッションプレート）16 点、写真 1 点（予定）



1



2



3

1：マドレーヌ・ヴィオネ《ディドレス》1934 年頃

2：エルネスト・タヤート《波 マドレーヌ・ヴィオネの水着》1923 年

3：ガブリエル・シャネル《イヴニングドレス（リトルブラックドレス）》1927 年頃